



第1回 愼蒼宇 (シン・チャンウ) 都留文科大学・明治大学・千葉大学非常勤講師

昨年は日本による「朝鮮強制占領」（「韓国併合」）から100年が経った年でした。とはいえ、メディアで日本と朝鮮半島の歴史を問われることはあまりありませんでした。本ドキュメンタリーにも、真摯に過去を問い、現在の歴史認識や植民地責任をめぐる諸問題を解決しようという姿勢は残念ながら欠落していたように見えます。この勉強会ではその問題点をみなさんとともに考えることができればと思っています。

第2回 長田 彰文 (ながた あきふみ) 上智大学文学部史学科教授

朝鮮をめぐる国際関係史、時に日本や米国との関係について研究してきました。すぐれて現代的な問題であるこの問題がどのような歴史的経緯を経てきたのか、またやはり現在においても協議されている親日派の問題がいかなるものであったのかを日本の朝鮮統治期において最大の出来事であった3・1独立運動前後の状況を振り返りながら一緒に考えてみたいと思っています。



第3回 秋岡 あや (あきおか あや) 一橋大学大学院社会学研究科博士後期課程

NHKスペシャル「シリーズ 日本と朝鮮半島」の第三回「戦争に動員された人々～皇民化政策の時代～」は、1937年の日中戦争から1945年の敗戦までの時期を、「戦時動員」と「皇民化政策」という2つのテーマから描いたものです。今回の講座では、植民地期朝鮮における軍事動員政策および労働動員政策の展開と、そこに動員された朝鮮人について、解放後の問題なども含めながらお話をさせていただきたいと思います。

第4回 鄭榮桓 (チョン・ヨンファン) 明治学院大学教養教育センター専任講師

「解放」後の在日朝鮮人の歩みを考える上で決定的に重要な時期は、1945年から1955年の10年間であるといえます。「日本と朝鮮半島」の第四回はこのうち、1945～52年の在日朝鮮人の法的地位の確定と、戦後日本の対朝鮮人処遇の形成過程を教育問題に焦点を合わせて追跡したものです。本講座ではドキュメンタリーが用いた史料を更に丹念に読み解きながら、在日朝鮮人の「解放」後史の出立について考えます。



第5回 李素玲 (イ・ソリョン) NPO法人 高麗博物館理事

日本政府は従来一貫して、植民地支配にたいする清算と戦後補償、在日朝鮮人の法的地位等々の、今日に直結する問題が、1965年の「日韓条約」において「完全かつ最終的解決」したという立場を堅持してきました。はたして「日韓条約」によって日本の植民地支配は清算されたのでしょうか。韓国併合の経緯、植民地支配の未清算、いまだ朝鮮民主主義人民共和国とは国交もなされていない現実から、日本と朝鮮半島のあるべき関係とはなにかを、歴史認識の原点から検証してみる必要があります。

第6回 姜徳相 (カン・ドクサン) 文化センター・アラン館長、滋賀県立大学名誉教授

関東大震災は、軍隊と警察と自警団とが街頭で朝鮮人を虐殺した事件である。15円55銭を言えない者が殺された。この話は、朝鮮人が敵であることを意味する。では生き残っていわゆる保護の名目で習志野などに收容された朝鮮人の殺害はいかなる意味があるのか。社会主義者・無政府主義者の虐殺を含め考えたい。



第7回 山本 興正 (やまもと こうしょう) 東京大学大学院博士課程

戦後日本の出入国管理体制に現れる日本の排外主義について考えてきました。日本の入管体制は外国人が生きるための権利を日本政府が握ることで成立しています。戦後、朝鮮人は解放を迎えるべきであったにもかかわらず、日本は在日朝鮮人に対して「煮て食おうと焼いて食おうと自由」という植民地支配的な管理・弾圧を続けます。そこに「平和主義」を謳歌した日本社会が在日朝鮮人にとっていかなるものであったのかを見ることができます。今回、法務省が作成したと思われる映像を「裏側から」見ることで、入管体制を支える私たちの認識を問いたいと思います。